

広島で学んだ平和の尊さ 被爆地への平和派遣

平和の尊さについての意識と知識を深めていただこうと、次代を担う子どもたちと保護者（7組14名）を、広島と長崎へ隔年で派遣しています。

今年は、8月5日～7日に広島を訪れ、原爆が投下された8月6日には原爆死没者慰霊式・平和祈念式に出席したほか、平和記念資料館や平和の記念碑を見学しました。また、広島被爆者援護会理事長の瀬木正孝さんから、被爆の体験を伺いました。その一部をご紹介します。

【問合せ】総務課総務係（本庁舎3階） ☎（5273）3505へ。

今年派遣された皆さん

- 久保田理花さん、久保田優果さん（花園小学校4年）
- 黒澤久仁子さん、北村弾さん（四谷小学校6年）
- 白井雅恵さん、白井実穂子さん（吉祥女子中学校2年）
- 高倉幸美さん、高倉杉さん（市谷小学校4年）
- 羽田朋子さん、羽田将人さん（西新宿小学校5年）
- 矢数明子さん、矢数悠介さん（津久戸小学校4年）
- 吉野利治さん、吉野皓さん（西新宿小学校5年）



広島への平和派遣に参加された皆さん
（広島平和記念資料館前で）

被爆体験

思いやりと命の大切さを胸に 語り継ぐ平和への願い

広島被爆者援護会理事長 瀬木正孝さん

昭和20年4月、当時小学5年生になったばかりの私は、小学2年生の弟、3歳の妹と3人で、広島から70kmほど離れた祖母の家に疎開しました。3か月も経つうちに、自宅にいる両親や中学1年生の兄、翌年から小学生になる妹に会いたい想いが強くなり、被爆した8月6日の前日、弟と二人で広島行きの蒸気機関車に乗り、爆心地の南西約1.5kmのところにある自宅に帰りました。

8月6日午前7時、警戒警報のサイレンが鳴りました。起きると、警察官の父が制服を着て出ていくところで、「今日、田舎に帰れよ。おばあちゃんに黙って帰ってきたらだめだぞ」と言いながら、家を出ていきました。そのときの後ろ姿が、父を見た最後になりました。

家の中庭にある池のほとりに立ち、かがみかけたとき、目の前を真っ白な光が走りました。光と同時に地鳴りが聞こえ、まるで頭の上から大きなドラム缶を叩きつけられたような強烈な音がしました。



原爆ドーム



現在76歳の瀬木さん。被爆50年目の平成7年に胃がんが見つかり、胃を全摘出されていますが、小・中学生に平和の大切さを語り継いでいます。

そのときの余韻は、被爆してから現在までの66年間、一度も消えたことがありません。

そして、気が付いたときには池を飛び越え、立っていたところから10mほど離れた風呂場のレンガの壁に叩きつけられていました。辺りは真っ暗で、上からは物が落ちてきました。別の場所から飛ばされてきた弟は泣いていました。真正面から熱線を浴びた母は血だらけで、皮膚がつるつむけていました。兄は窓に背中を向けて寝ていたため、背中から下にガラスが無数に刺さっていました。

今も心に焼き付いているのは、あれほど大やけどしていた母が、姿が見えない妹を捜しに、柱の隙間にするっともぐり込んだ光景です。つぶれた家の下の方からは白い煙が上がり始めていましたが、母の動きは速く、わずかな時間で、病後で力なく泣いている妹を布団にくるんで出てきました。

8月7日、救護所になっていた江波国民学校へ行き、母・兄・妹は赤チンを塗ってもらいました。母が「お前は元気そうじゃけ、家の方に行ってお父ちゃんを捜してくれ」と言うので、一人で焼け跡に向かいました。

あたりは黒ずんだビルが所々に建っているだけでほとんど建物はなくなって、どこに立っても広島じゅうが見渡せました。自分の家をようやく見つけ、板切れに燃えさして「お父ちゃん、江波国民学校へおる」と書き、必死に父を捜しました。

8月8日、母が「今日は、お父ちゃんが勤めている県警本部がある県庁の方へ行ってくれ」と言うの

で、捜しに出掛けました。鉄筋の県庁も完全に破壊され、県庁の南にあった日赤病院にも父の姿はなく、病院の正面玄関に出ました。

玄関の前には、真っ黒な死体が放射線状に並べられ、5段6段と重ねてありました。そのとき、痩せ細り、すすけた手の先が、力なく何かをつかもうとするように動くのを見ました。頭の上から氷水をかけられたようにぞっとし、次の瞬間、泣きながら走って逃げました。その後も、時々その黒い腕に追いかけられる夢を見るようになりました。平成元年11月、知人から「体験話してくれや。あんたらが話せんかったら、原爆の被害が風化して忘れられてしまう」と言われ、体験談を語り継ぐようになると、不思議と黒い腕に追いかけられる夢は見なくなりました。

昭和21年3月、父の遺骨が県庁から送られてきました。中には、焼けた砂と親指大の白い骨が1つ入っただけでした。妹は髪の毛が抜けて鼻血が止まらなくなり、歯茎からも出血し、昭和22年8月、学校に1度も行くことなく亡くなりました。

私は、一人一人が思いやりの心を持ち、人間の命や生き物の命の大切さを胸に収めておくことが、平和の基本ではないかと思っています。そうすれば、差別したり、人をいじめたりすることは必ずなくなっていくます。こうした「思いやりの心」が広がって、戦争のない、争いのない地球になると信じています。



原爆の子の像

◆講座・催し等の申し込み◆

- | | |
|--|---|
| ①講座・催し名
②〒・住所
③氏名(ふりがな)
④電話番号
(往復はがきには、返信用にも住所・氏名) | はがき・ファックスの記載例
※あて先は各記事の申し込み先へ。
※費用の記載のないものは、原則無料。 |
|--|---|



くらし

講演会 暮らしの簡単節約術

【日時】8月30日(火)午前10時～12時
【内容】節電にもつながる「節約」のコツ(和田由貴・消費生活アドバイザー)
【会場・申込み】はがきかファックス(記載例(2面参照))のほか託児希望の方は子ども(必着までに環境学習情報セ

【日時】8月30日(火)午前10時～12時
【内容】節電にもつながる「節約」のコツ(和田由貴・消費生活アドバイザー)
【会場・申込み】はがきかファックス(記載例(2面参照))のほか託児希望の方は子ども(必着までに環境学習情報セ
【日時】9月19日(木)午前10時～12時
【会場】戸塚地域センター(高田馬場2-18-1)
【対象】区内在住・在勤の方、80名
【内容】放射能防護学の専門家に聞く原発問題・今後の暮らしとエネルギー(野口邦和・日本大学専任講師)
【後援】新宿区
【主催・申込み】往復はがきかファックス(記載例(2面参照))のとり記入で、9月5日(必着までに新日本婦人の会新宿支部(〒161-0003)33下落合1-16-15-101) ☎(3952)7314・FAX(3952)7315へ。応募者多数の場合は抽選。

産業振興施策の実施状況を公表

今年4月1日、区の産業振興に関する基本的な考え方を示す「産業振興基本条例」を施行しました。条例の第9条に基づき、22年度の主な産業振興施策の実施状況を公表します。詳しくは、産業振興課・区政情報センター（本庁舎1階）・区立図書館で閲覧できます。新宿区ホームページでもご覧いただけます。

【問合せ】産業振興課産業振興係（西新宿6-8-2、BIZ新宿4階） ☎（3344）0701へ。

◆実施状況を公表する主な産業振興施策

- 中小企業活性化支援
- 地場産業支援
- 産業振興施設
- 商店街活性化支援
- 産業情報の発信

◆主な実施状況

- 中小企業向け制度融資
利子補給／7404件、6億1111万3934円
信用保証料補助／1590件、2億1762万435円
- 商店街にぎわい創出支援事業 95事業、8623万6000円